

84

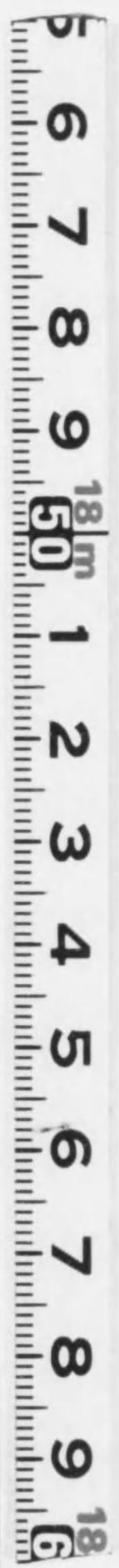
7

特 252
403

歐洲戰爭とソ聯の動向

人讀本 第五輯

東京日日新聞社
編輯局副主幹
布施勝治



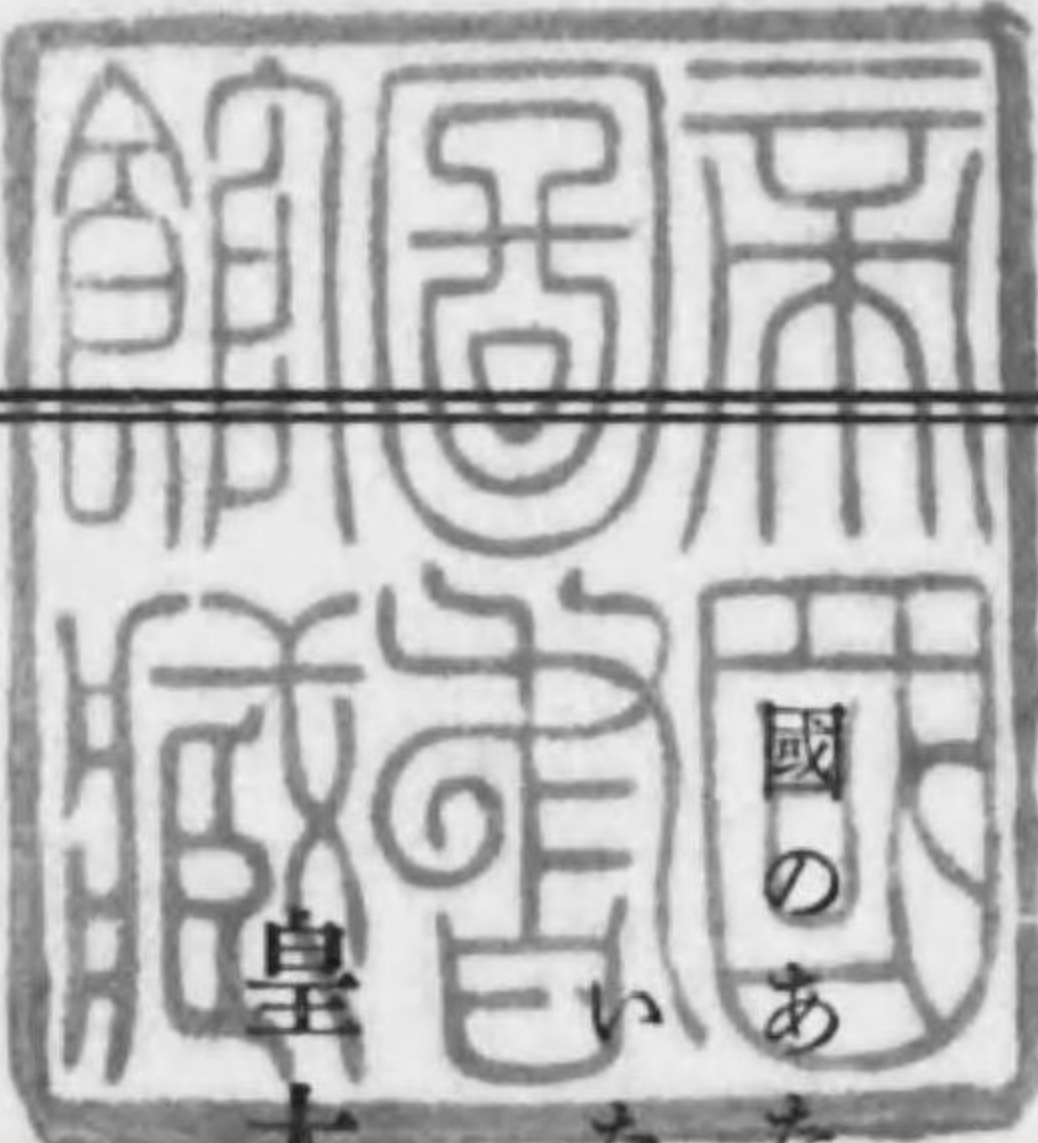
始



傷痍軍人五訓

- 一 傷痍軍人ハ精神ヲ錬磨シ身體ノ障礙ヲ克服スベシ
- 一 傷痍軍人ハ自カヲ基トシ再起奉公ノ誠ヲ效スベシ
- 一 傷痍軍人ハ品位ヲ尚ビ謙讓ノ美德ヲ發揮スベシ
- 一 傷痍軍人ハ操守ヲ固クシ處世ノ方途ニ慎重ナルベシ
- 一 傷痍軍人ハ一身ノ名譽ニ鑑ミ世人ノ儀表タルベシ

持252
403



大正天皇御製

大正三年

負傷兵を見て

國のあたりち拂はむといくさ人

いた手おひても進みゆきけむ

皇太后宮御歌

昭和十三年

傷病兵

にこりたる水にひたりていえかたき

病になやむますら雄あはれ



發行所寄贈本

傷 痍 軍 人 讀 本

第 五 輯



凡例

本冊子は軍事保護院及大日本傷痍軍人會共同主催の下に昭和十五年八月三十一日より同九月二日に至る三日間滋賀縣比叡山延曆寺宿院に於て開催せる傷痍軍人夏季修養會に際し東京日日新聞社編輯局副主幹布施勝治氏の講演されたるものを速記し傷痍軍人各位の教養に資する爲上梓したるものなり。

昭和十五年十月

軍事保護院
大日本傷痍軍人會

歐洲戰爭とソ聯の動向

東京日日新聞社
編輯局副主幹 布施勝治

私は一介の新聞記者でありまして、皆さんの前に出まして、教訓めいたことを申上げる資格を持たない者であります。新聞記者の使命は只事實をありのまま御報告申上げると云ふだけの使命であるのでありまして、併し私がヨーロッパに参りまして、見て参りました所の今度の大戰前のヨーロッパ、夫れから戰爭が始つてからのヨーロッパと云ふものが我々に取つて色々教訓を興へてゐるのであります。

第一に我々が考へなければならぬことはドイツがどうしてあのやうな鮮やかな勝戦が出来たか、フランスがどうしてあのやうな見苦しい負戦をやつたか、此の原因を検討しなければなりません。私があちらで見て参りました印象を率直に申しますならば、フランスが負けたのは勝つて兜の緒を緩めたからでありまして、ドイツが勝つたのは負けて兜の緒を引締めたからであると考へるのであります。

「勝つて兜の緒を締めよ」

是は我が東洋の名訓であります。

皆さんは戦場に於て名譽ある負傷をせられた方々である。而も皆さんは傷いて尙國家の爲に御奔走なまつて居られる。傷痍軍人の五訓の中に「再起奉公」と云ふことがあります。此の「再起奉公」は私は「勝つて兜の緒を締めよ」以上のものである。傷いて尙皇國の爲に御奔走になつて居る、これは「勝つて兜の緒を締めよ」以上のものであると思ふ。

扱て今度私が九度目のヨーロッパ旅行に立ちましたのは今から三年前のことです。シベリヤを通りまして、先づモスコに飛込んで行つたのであります。夫れからモスコに暫く居りまして、ポーランド、ドイツを経てフランスに行つたのであります。それは丁度今から二年半前のことです。當時のパリーには皆さん御承知の通り萬國博覽會が開かれて居つて、平素でもパリーはヨーロッパの都であるのであります。そのパリーに萬國博覽會が開かれましたので、華の都は錦上更に華を添へたとでも申しませうか、洵に賑やかな綺麗なパリーであつたのであります。併し私はさうした綺麗な、賑やかな、華やかなパリーに来てどう云ふ印象を受けたか、私は此のパリーの綺麗な華やかさと云ふものはフランスに取つて、あの燈火の將に消えんとする時にピカツと光を放つ燈火の明滅でないかと云ふやうな印象を受け

たのであります。何故私が久し振でフランスに来て、さやうなフランスに取つて縁起の悪い印象を受けたかと云ふと、當時のフランスは全く勝つて兜の緒を緩めて泰平の夢を食つて居つたからであります。萬國博覽會の正門前には政府が金を投じて平和館なるものを拵へ、全世界に向つて平和を宣傳して居つた。さうしてその頃パリーの有名な映畫館にはチャキニーズと云ふ戦争反對の映畫がかゝつて居りました。その映畫には有名なハンセンと云ふ俳優が實演して居りまして、名前からハンセンと云ふ男が反戦映畫をやつて居つたのであります。(笑聲)斯う云ふ反戦映畫をパリーの映畫館で見、又萬國博覽會の正門前に出来て居つた平和館に飛込んで見て、私は、フランスは勝つて兜の緒を緩め泰平の夢を食つて居るのだ。即ちフランスは燈

火明滅の運命に迫つて居ると云ふ印象を受けたのであります。扱て其後フランスから又ドイツにやつて來たのであります。當時のドイツはどうであつたか、何しろ此前の歐洲大戰で數年は殆ど全世界を敵として戦つてその揚句負けたのであります。負けたあとのドイツは洵に惨めであつたのであります。此の惨めな敗殘のドイツを見てイギリス、フランスがもうドイツ恐るゝに足らずとしてタカを括つたと云ふことは道理であつたと思ふ。私はあの大戰直後のヨーロッパにも行つたのであります。あの敗殘のドイツの姿を見てもうドイツ再起の處がない。英佛がさう云ふやうに見くびつて了つたのも道理あることと思

つたのであります。所が其悲惨なドイツ、恐るゝに足らぬと思つて居つた所のドイツに今から七年前、皆さん御承知の通りヒットラーが現はれナチの政黨を率ゐて茲に敢然として新ドイツの建設に乘出したのであります。そしてナチのドイツが先づ最初に取かゝつたのが軍備の再建であつたのであります。但しあの大戰で負けたあとのドイツには金も足りない、物も足りないのであります。金も足りない、物も足りない貧乏なドイツに於て軍備を建直すと云ふことは、容易なことではなかつたのであります。先づドイツの國民は七年臥薪嘗膽したのであります。ドイツ人は先づその日常生活を切詰めたのであります。彼等は實際三度の食事を二度に減らしさうしてこの大專業に著手したのであります。私は最近のヨーロッパ旅行、二年間ブツ通しでヨーロッパ中を駆け廻つて居つたのであります。私共新聞記者は筆で書くのではありませぬ。我々は足で書くのであります。私は斯う云ふ短い足の持主でありますが、此の二年間ヨーロッパ中で、長くて十日間、短い時は三日と云ふやうに次から次へと駆け廻つて居つたのであります。各國をかけ廻つて見ましてドイツ人程まづい物を喰つて居る國民はありませぬ。ドイツのために一たまりも無く敗れたポーランドあたり、あゝ云ふ小さな國の方が喰べ物はドイツより遙かに良かったのであります。ドイツは二、三年前からバターの本物がありません。滿洲の大豆を絞り上げて造つた人造バターしかない。しかもバターは西洋人の大切な食物である。所

が今は人造バターしか喰べられない。そこで私はポーランド、またはバルチック三國を廻つてドイツに行く度毎にバターの本物を持つて行くことにしたのであります。或日のことラトヴィアのリガからバターを五、六斤お土産にもつて飛行機に乗つてベルリンに行つたのであります。丁度その日の晩にあるドイツ人の家庭に招かれた。そこで晚餐に與つたのであります。その主婦が私の前に滿洲大豆を絞つて作つたバターを恥かしさうに持つて來た。外國人のお客さんに本物のバターが無いと云ふことを暴露することが恥かしかつたのでせう。如何にも恥かしさうに私の前に人造バターを持つて來たのであります。そこで私は此處ぞとばかりたつた今飛行機で持つて來た所の本物のバターを黙つて其卓上に出したのであります。さうすると其一家の人達の顔色が變りました。久し振に本物のバターを見たといつて喜んだのであります。そして私の隣りに座つて居りましたお嬢さんが嬉しさの餘り私に飛びついて私の頬に接吻したのであります。私はヨーロッパに行つてヨーロッパの婦人から接吻されたのは是が空前であり、また絶後であつたのであります。(笑聲)之を以て致しまして、ドイツ人が今日如何にまづい物を辛棒して喰べて居るか、臥薪嘗膽して居るかと云ふことがお判りになるであらうと思ふ。但し斯う云ふ金も足りない、物も足りないと云ふドイツに於きまして、軍備の再建をなすに當つて極めて大切なものが一つ残つて居つたのであります。夫れは何であるか、夫れ

は學問の力であつたのであります。科學の力、技術の力であつたのであります。科學ドイツの力は物凄く強いのであります、その科學と技術の力を元手として、軍備の再建に取りかゝつた。實にドイツ人はよく軍事技術の刀を磨いた。あの此の前の歐洲大戰と雖もドイツ人から此の科學技術の刀を奪ひ取ることが出来なかつたのみならず、ドイツは此前の大戰の經驗に依つて益々軍事科學、軍事技術の刀を磨いたのであります。特に最近のスペインの内亂を利用して飛行機と戰車の改良を計つたのはドイツばかりではありません。イタリア然り、ロシア然りであります。此の三者が今日特に優れた飛行機、戰車を持つて居るのはスペイン内亂を利用したからでないかと思ふのであります。實戰の經驗程貴いものはありません。扱て斯う云ふ科學と技術の刀を磨き、夫れを基本として建直したドイツの軍備の恐しく強いものが出来たのも當然であつたと思ひます。そこで愈々準備が出来たと、もう是なら大丈夫だと言つてヒットラーが敢然として立つたのは昨年九月一日であつたのであります。夫れから丁度滿一年になるのであります。獨軍七十個師團はポーランドに雪崩を打つて入り込んで來ました。夫れまで私は二十度近くもポーランドに行つて居ります。ポーランドには百萬の大軍が獨軍の來るのを待構へて居つた。ポーランドの陸軍はヨーロッパでも有名な精銳な軍隊であります。でありますからヒットラーと雖も

此の百萬のポーランド軍を叩き伏せるにはどうしても三ヶ月はかゝるであらうと言つて居つたのであります。所がどうでせう。百萬のポーランド軍が僅か十八日間にして獨軍の爲に木葉微塵に叩きつぶされたのであります。昨年九月ポーランドに於ける獨軍の勝利と云ふものは實に偉大なものであります。あのヒンデンブルグをして世界に名をなさしめたタンネンベルクの勝利も昨年のポーランドに於けるヒットラーの勝利に比しては眇たるものではなかつたかと思ふのであります。

然らばポーランドに於ける獨軍の大勝利、ポーランド軍の慘憺たる敗北は、其の據つて來た所何であらうか、それは勿論科學と技術を本にして叩き上げた所のドイツの新しい武力の結果ではないか、ドイツは色々新しい武器を拵へた。其の新銳の武器の威力に負けたのではないか、勿論獨軍の武器がポーランドの夫れに比して格段の相違のあつたことは申すまでもありませんが、私はポーランドの敗北の重要な原因は他にあつたと思ひます。ポーランドの政治家、ポーランドの指導者が「大國病」にかゝり飛んでもない見當違ひをして居つたと云ふことが、ポーランドの敗北の原因を爲したものと思ふのであります。皆さんも傷痍軍人の指導に當つて居られる方々であります。指導者の責任は極めて重大である。ポーランドが負けたのはポーランドの指導者が「大國病」にかゝつてゐたからであらうと思ふのであります。私は先程申しまし

た如く、此の二年間ヨーロッパに居る間に屢々ポーランドを訪れワルソーでポーランドの政治家や指導者には度々會つたのであります。私が彼等から受けた印象は彼等は悉く「大國病」に罹つて居ると云ふことでもあります。ポーランドはヨーロッパの五大國の一つである。英佛獨伊に次ぐものはポーランドであると信じて居つたのであります。英佛獨伊に相並ぶ強國と考へて居つたのであります。そこに大きな誤謬があつたのであります。ポーランドの政治家や指導者が、如何に深くさう考へて居つたかと云ふ證據は英國がポーランドの保護を提議した時に、ベツク外相が「ポーランドも亦英國の獨立を保護して上げませう」と提議したことでもあります。斯う云ふ考へを持つて居つた政治家や指導者がポーランドをして誤らしめたのであります。昨年九月、獨軍七十個師團が大舉してポーランドに乗込んで來ました時、ポーランド軍は到る所での優勢な獨軍を對手に惡戰苦闘して居つたのであります。總てポーランドの都のワルソーが獨軍の機械科部隊のために十重二十重に圍まれ、死守戦をやつて居つたのであります。所が其の眞最中にポーランドの大統領モシツキーはスミグリ・リツツ元帥と共に隣りのルーマニアに逃げたのであります。船が沈む時に眞先に逃げるのは鼠ださうであります。ポーランド丸が沈む時に眞先に逃げたのは鼠でない、船長格の大統領であつたのであります。驚いた話ではありませぬか、不思議なこともあつたものではありませぬか、所が私は夫れは少しも不思議でな

つたと思ふ。スミグリ・リツツ、名前からしてリス、即ち鼠の親類のリスである。(笑聲)所が其のリスの相手となつたのがドイツのヒットラー(虎)であつたのであります。ポーランドとドイツの戦争はリスと虎の戦争であつたのであります。(笑聲)リスが負けたのは當然であります。(笑聲)

最近私が二年間ヨーロッパに居りまして、最も興味深く考へましたことは、近年のヨーロッパは一口で申しますと「役者が揃つて居る」と云ふことでもあります。少くとも今日の國際舞臺に立つて居ります千兩役者が四人あるのであります。ドイツのヒットラー、イタリーのムツソリーニ、英國のチエムバレン、今はチャーチルに代りましたが、私がヨーロッパに居りました時の大英帝國の宰相はチエムバレンであつたのであります。之れにロシアのスターリンを加へて、以上四大巨頭がヨーロッパの國際舞臺の眞正面に自ら乗り出して來てのるかそるかの大芝居をやつて居るのであります。お互に抱き込んでやらう。騙してやらうとして嘘々實々の肚藝をやつて居る。その肚藝が行詰つて拳骨を振上げたのが今度の戦争であります。でありますから、私は新聞記者としてヨーロッパに居りました時、先づ刮目をしなければならぬのは此の四大巨頭連であつたのであります。私は此の四大巨頭の一擧手一投足に目を離さず刮目して居つたのであります。そして到る所で斯う云ふ巨頭連中のあの物凄い大芝居を現場で目撃して居つたのであ

ります。さうして私はあちらに居る時に一體此の四大巨頭の中で誰が一番偉いのだらう。誰が一番利口なんだらう、又誰が一番横著なんだらうと云ふことを較べて考へて見たのでありますが、私は此の四大巨頭の中で一番利口なのはイタリアのムツソリーニでないかと思ふのであります。イタリアはドイツと軍事同盟を結んで居つた。併し戦争が始つてから十ヶ月程も知らぬ顔をして居つた。時には英國に對して秋波を送つたことさへある。併し十ヶ月目になつて、愈々フランスが兜を脱ぎかけるとイタリアは堂々と戦争に乗出して來たのであります。イタリアのムツソリーニはまことに利口な人であると申さなければなりません。所で此のイタリアのムツソリーニと比較してより利口でより聰明だとは申しませぬが、今日のヨーロッパを動かして行く所のあの四大巨頭の中で一番ずるい者、横著な者は誰かと言つたら、夫れはソヴィエツト・ロシアのスターリンであると思ふのであります。私は會つてスターリンに會つたことがある。スターリンはソ聯の獨裁官であり、そしてあの恐ろしい殺戮をやつた暴君であります。獨裁官であり暴君であるスターリンはどんなに恐ろしい男かと思つて内心恐ろしく其の前に現はれたのであります。彼はさうした恐ろしい所をスツカリ隠してニヤリ／＼笑ひながら低い聲でものを言ふのであります。そこがスターリンの曲者たる所以であると私は直感したのであります。

(笑聲) 私は會つてレーニンにもトロツキーにも會つたことがあります。レーニンは私の鼻先に顔を出して唾をかけながら熱辯をふるつたのであります。又トロツキーはつい先頃メキシコでスターリンの廻し者に殺されたのであります。彼は私一人相手でも大勢の前に居るやうなジエスチュアを示して演説をするのであります。しかしスターリンにはトロツキーのやうな芝居氣もなければレーニンのやうな熱もない、平々凡々ニヤリ／＼笑ひながら低い聲で私に握手の手を差し延べながら曰く「わしもアジア人であります」と云ふ愛想の良い挨拶であつたのであります。そこがあのスターリンの曲者である所以である。彼はコーカサスのジョールジャに生れたアジア人であります。そして青年時代の彼は郷里のコーカサスに居つたのであります。青年時代のスターリンは其郷里に居つて何をして居つたか、是はもう三十年も前の古い話でありまして、さう云ふ古い話は新聞記者はすべきでないのであります。併し今日のソ聯に君臨して居るあの獨裁官、そして今日のヨーロッパを動かして居る四大巨頭の一人たるスターリンの性格を知るには青年時代のスターリンが其の郷里に居つた頃何をして居つたかと云ふことを検討する必要があります。

三十年前のロシアと申しますと、帝政政府華やかなりし頃でありまして、コーカサスの都チフリリスにはゾアの總督が居つたのであります。其總督の住んで居りました總督官邸前の廣場に

於ける或日の出来事であつたのであります。或日總督府の官吏二人が五百ルーブルの札束をウシとつめ込んだ袋を三頭立の馬車にのせ、前後にはコサツク騎兵が數千名護送して行つたのであります。所が此の馬車が總督官邸前の廣場の角に差しかゝりますと、其角に建つて居りました高い建物の屋上から何者か巨大な爆弾を投げつけたのであります。其の爆弾は車の直ぐ傍で爆發致しました。其の馬車に乗つて居りまた所の總督府の官吏二人はそこで即死をしたのであります。所が其爆弾の爆發を合圖に其の邊を歩いて居つた通行人と見られて居つた者どもが各々ピストルをポケットから出して馬車を護衛するコサツク騎兵を目掛けて亂射したのであります。そして瞬く間に二三十名の負傷者が轉り、馬車には火が燃えついて居つたのであります。三頭立の馬は喫驚りして駈け出す、火の車が駈け出して行く……物凄い場面が展開したのであります。すると何處からともなく一人の壯漢が陸軍士官の軍服を着けまして、恐ろしく足の早い馬に跨り突如として其現場に現はれたのであります。陸軍士官が現はれたのだから此の暴徒を鎮壓に來たのであらうと見て居つた。所が何ぞ知らん、此の士官はあの火の車を追ッ駈けて行つた。そして其の火の車に載つて居る五百ルーブルの札束袋を引上げて自分の乗つて居る馬の鞍に結び着けるや否や何處かに其姿を消して了つたのであります。其の一人の壯漢こそ當時コーカサスの官憲を戰慄せしめた所のジョールジャ・ギヤングの頭目にして而して今日のソ

聯の頭目たるスターリン其の人であるのであります。さうした過去の閱歴を持つ彼の前に現れると、彼はニヤリ／＼と笑ひながら低い聲でものを言ふではありませぬか、老々猶々、海千山千の人と感じたのであります。そこで私は又四大巨頭に居るのであります。其の内では一番勇氣のある人は誰か、それは申すまでもなく此の四大巨頭の中で一番年の若いドイツのヒットラーであるとお答へするに私は躊躇致さないのであります。彼はヒットラー！其の名の如く虎の如く勇敢である。彼は平素口癖のやうに申して居ります。曰く「俺は臆病者が大嫌ひだ」又曰く「獨軍の行くところヒットラーあり！」と。獨軍の國外に進出する時、毎時も彼はその陣頭に立つて出て來るのであります。私は一昨年の春ドイツがオーストリアを併合する時にウキンの街頭に立つて、そこに乗込んで來た獨軍の先頭にヒットラーを見たのであります。また昨年三月チエツコを併合した時、獨軍二十萬の先頭に帆を降ろした自動車に腰から上を出したヒットラーを見たのであります。私はヒットラーは「命知らずだな」と思つたのであります。あの時は戦争はなかつたのであります。が、征服したばかりの敵地に乘込んだのであります。ウキンでもプラーグでも「あのヒットラー奴が」とオーストリアとチエツコの學生が——中には戦車目がけて雪礫を投げた者がある。私は其の傍に居つたのであります。が、さうした命知らずのヒットラーを總統に頂いて居るドイツ國民も亦命知らずである。勇將の下に弱卒なし、ドイツの國民も亦

命知らずであつた。ドイツは結局戦争まで行くのである。是が私が昨年三月あの雪の降つて居るブラーグの街頭に立つてヒットラーから受けた直覺的印象であつたのであります。而して其後、果せるかな半年経たぬ中に昨年の九月、丁度今から一年前に先程申しましたやうにヒットラーは獨軍を率ゐてポーランドに乗込んだのであります。そして僅か十八日間に百萬のポーランド軍を片著けたのであります。然らば獨波戦争が終つたあとに、其次に来るものは何か、夫れは勿論ドイツ對フランスの決戦でなければならぬのであります。併し御承知の如く獨波戦争の次に來たものは對英佛決戦でなくて歐洲戦争は事實上休戦状態に陥つたのであります。ドイツの方からも攻め立てなければ、英佛の方からもかゝつて來なかつた。斯くして獨波戦争が終ると歐洲第二次大戦は秋も半ばにして早くも冬の眠りに陥つたのであります。茲に於て私は又ヒットラーの問題に戻つて來るのでありますが、私は今日のヨーロッパは四大巨頭の肚藝舞臺である。四人のド偉い役者が物凄い芝居をやつて居るのであると云ふことを申しましたが、此の四大役者の一人であるヒットラーと云ふ千兩役者の最も得意とする芝居は何であるか、夫れは脅しの芝居であるのであります。ヒットラーと云ふ人は脅しの芝居を打つのに極めて妙を得て居るのであります。さうして彼はどう云ふ場合に其の脅しの芝居を打つかと申しますと、戦はずして相手を參らせやうと云ふ時に、此の手を用ひるのであります。ヒットラーは戦はずして

相手を征服したいのである。一昨年オーストリアを乗つ取りました時にも、亦昨年の三月チエツコを併合しました時にも、此の脅しの手を用ひたのであります。さうして英佛を抑へ付け、戦はずしてオーストリア及びチエツコを乗つ取つたのであります。ポーランドに對しましては此の脅しが效かなかつた。何故ならポーランドがドイツよりも強いやうな大國であると思つて大國病に罹つてゐた。斯うした大國病に罹つて居るポーランドには、さしものヒットラーの脅しの手も效かなかつたのであります。さうしてポーランドに對しては脅しの手が效かなかつたから武力で叩き付けたのであります。扱て獨波戦争が片著くとヒットラーの頭に來たのは英佛と出來るなれば本格的の戦争をやらずに相手を參らせたい。そこで彼は昨年十月六日のことでありました、ダンチツヒに於て戦後初めての大演説をやつたのであります。其大演説に際しまして、ヒットラー曰く「ドイツにはド偉い新しい武器が出來て居るのだ。此の新しいド偉い武器はポーランドの戦場には出さなかつた。是は取つて置きとして隠してあるのだが、一度西部戦場はその恐ろしい姿を現はさんか、英佛は慄ひ上つて了ふであらう」と言ふたのであります。是もヒットラーの得意の威しの手であつたのであります。そして彼は英佛を脅しつけたのであります。さうして出來ることなら本格的の戦争をやらずに參らせなかつた。そして此の手が私は相當効いたと思つて居ります。英佛は遂に立たなかつたのであります。ドイツの方でも本格的の戦争

は成るべくやりたくないから、ドイツの方も攻めない。斯くして歐洲第二次大戦は秋半ばにして早くも冬眠状態に入つたのであります。扱て戦争は眠りに陥りましたが、ドイツは其の間眠つて居らなかつたのであります。ドイツは此の冬中何をして居つたか、ドイツの國內到る所に柔道の道場が四十箇所出来たさうであります。あちらには疊がありませぬから、マドラックのやうなものを敷いたものであらうと思ひますが、さう云ふ軟かいマドラックの上に選抜された一萬二千の壯丁がお互に投げ合ひつこを始めたのであります。其のマドラックの上に轉ぶ稽古をやり始めたのであります。正に柔道の猛練習である。併し夫れは柔道の練習の如くして柔道の練習ではなかつたのであります。夫れは何であつたか、落下傘戦術の猛練習であつたのであります。今度の戦争で落下傘戦術と云ふものが非常に有名になりましたが、一體此の落下傘戦術は誰が考へたのでありませうか、一番初めに考へたのはイタリーである。フランスだと云ふ説もある。私の知つて居る限りでは落下傘戦術を近代の戦争に最も大規模に用ひようと云ふ新しい戰略思想を考へ出したのはソ聯のナポレオンと言はれた所のトハチエフスキー元帥であると言はれて居ります。今から七年前、此前の前私がソ聯に行つた時に、私がモスコーに滞在して居つた間にモスコーにはゴリキー公園と云ふものがあります、其の公園の片隅に高い塔が建てられたのであります。其の塔の上には外から見えるやうな螺旋形の階段が出来たのであり

ます。私は素人で何も判りませぬから、是は物見櫓が出来たのだなと思つて居りましたが、扱て其の後十日ばかり立つて、又其の公園に散歩に参りました所が、其の高い塔の頂上に大きなパラシュートが吊下げてあるのであります。さうして其塔の頂上の一角に丁度水泳の時に飛び降りるやうな板が付けてあるのであります。見て居るとそこからパラシュートを着けた若い男女が飛降りるのであります。夫れはパラシュートのスポーツであると同時に落下傘戦術の第一課であつたのであります。私は之を見て非常に興味を感じた、新聞記者は何か新しいものを見ると興味を感じるものであります。さうした興味がなければ我々は新聞記者が勤まらぬ。私は此の新しいものを見て興味を感じたばかりでない、こいつは一つ自分もやつて見なければならぬと考へたのであります。そこでやつて見ようと思つて、其塔の傍へ参つたんであります、何しろ餘り高い塔であつて、若しあのパラシュートが開かずに落つたら死んでしまふであらう。是は考へ物だ、(笑聲)まあ暫く人のやるのを見てやらうとそこへ腰を降したのであります。見て居りますと矢張身體の大きな人が降りる時には地上に降りる度毎に尻餅をついて、中には若い女共は悲鳴を上げるのであります。しかし身體の軽い細い人が降りる時には、洵にフワリ／＼と氣持良ささうに降りるのであります。そこで私は自分の身體をつねつて見たのであります、何しろ御覽の通りに軽快な身體の持主でありまして、(笑聲)誰よりも小さいので

あります。是なら尻餅をつく心配がないと云ふ百%の確信を得たのでありまして、そこで十ルールブルかの入場料を拂つて十何階かの螺旋状の塔を昇りましたが、實は正直の所飛んでもないことをした。こんな所に來るのぢやなかつたと思ひましたが、まさかあの頂上まで昇つて其まゝ元の階段を歸れるものでもない。そんなことを思つて居りました所、私の身體には何時の間にかパラシュートを結び着けられて居つたのであります。御承知の通りパラシュートはポートの救命具のやうに十文字に着けるのであります。何時の間にやら十文字にしつかと結び着けられて居つたのであります。そして私は板の先端に立つて居る大きな婦人のお尻を突き出すことになつたのであります。それを突き出すと同時に、私は板の先端に立たされて了つたのであります。そして其次の人に依つて私もまた突き出されたのであります。扱て足が宙にブラ下つた時！恐らく私は蒼白な顔になつたらうと思ひますが、(笑聲)幸ひにしてパラシュートはバツと開いたのであります。扱て聞きますと御覽の通りの軽快な身體の持主でありまして、洵に氣持良くフワリ〜と降りることが出來たのであります。今度は勇氣百倍でありまして、大勢の人が見て居る前を悠々と横行闊歩して出たのであります。私も曾つて徴兵検査を受けたのであります。すが、何しろ身の丈が七、八寸も足りないといふので不合格になつたのであります。が、(笑聲)今日のやうな落下傘戦術のやうな時に、私は少くとも落下傘兵としては甲種合格の資格があらう

と思ひますが、しかし私は落下傘戦術の第一課を卒業したに過ぎないのでありまして、落下傘兵になるには第二課、第三課を経なければなりません。然らば落下傘戦術の第二課は何であるか、第三課は何であるか、夫れは先程申しましたドイツが此の歐洲第二次大戦が冬眠状態に陥つて居る間に、ドイツ國內に新たに拵へた所の柔道の道場四十何箇所に於ける所の柔道の猛練習、夫れが即ち落下傘戦術の第二課であつたのであります。夫れは地上に降りた時に怪我をしない稽古であるのであります。然らば落下傘戦術の練習の第三課は何であるか、丁度此電燈のシャンデリアのやうに天井から釣下げられるのであります。さうして、之を縦横無盡に振廻すのであります。是は飛行機から離れた時空中で眩暈をしないやうにする稽古であります。さうした猛練習の後に初めてドイツの落下傘兵が出來たのであります。扱てさう斯うして居る間に冬の日が過ぎ去りまして、今年の三月になつたのであります。戦争のシーズンが到來したのであります。英佛は兜を脱いで來さうにもない。そこでヒットラーは一つ最後の脅しの芝居を試みやうと考へたのであります。ヒットラーの英佛に對する最後の脅しの芝居と云ふのが是亦見物であつたのであります。皆さん御承知の通り今年の三月米國のルーズヴェルト大統領がヨーロッパの平和の探りの爲にウェールズ國務次官を差向けたのであります。そしてベルリンには三月に來たのであります。此の機會にヒットラーはあの見事な脅しの芝居を打つたのであります。ヒット

ラーはゲーリング元帥をしてウェールズ國務次官を引見せしめたのであります。ゲーリング元帥はウェールズ次官に會つたのであります。そしてゲーリング元帥はウェールズ次官に向つて曰く「ドイツには超重爆撃機が何千臺も出来て居る。今は隠してあるが、若しいつか翼を連ねて英本土に大空襲を決行せんか、イングランドの島の形が變つて了ふであらう」と、是がヒットラーの最後の脅しであつたのである。しかし何しろ英佛ともあらう大國が一旦ドイツに宣戦して置きながら戦はずしてドイツの軍門に降る譯には行きませぬ。遂うく其の脅しも効果を奏さなかつたのであります。ウェールズ國務次官の使命も無駄に終つたのであります。どうしても戦争をしなければならぬと考へまして、この五月つひにヒットラーは茲に斷然獨軍に對して蘭白進軍を命じた譯であります。皆さん御承知の通り五月の九日から十日にかけては、獨軍は大舉して先づオランダに乗込んだのであります。オランダ、ベルギーに乗込んで來た獨軍、勿論オランダ、ベルギーを相手にしたのではありませぬ。英佛相手であります。今度は最も新しい武器、最も新しい戰術を出さなければならぬ。ポーランドの時は新しい武器、戰術は隠して居つたのであります。今度は蘭白に乗込んで來た。獨軍は之まで取つて置きに隠して居つた新しい武器、新しい戰術を出さなければならぬ時が來たのであります。但しドイツは決してさう云ふ新しい武器、新しい戰術を大出しには出さないであります。小出しに出すのでありま

す。そして相手が變はると必ず武器、戰術を變へるのであります。然らばオランダに對してドイツはどう云ふ新しい武器、新しい戰術を出して來たか、夫れは申すまでもなく此の冬中鍛へ上げました所のあの落下傘部隊を出したのであります。オランダの中心ロッテルダム、郊外に向つて、敵の眞中に落下傘部隊を降ろしたのであります。是は實に大膽にして傍若無人の戰術と申さなければなりません。何しろ敵の眞中に落下傘部隊を降ろすと云ふことは冒險極まることでもあります。斯う云ふ大膽にして傍若無人、冒險極まる戰術を敢行するに當つては、どうしても是は大丈夫、うまく行くと云ふ確信がなければならぬ。確信が無くてはあんな冒險な戰術は出来るものでありませぬ。ヒットラーには二つの確信があつたと思ひます。ヒットラーには冬中鍛へ上げた落下傘部隊がある。是ならうまくやれるであらう。しかし是だけの自信では、まだヒットラーと雖もあの無鐵砲極まる戰術は敢行出来なかつたであらうと思ひます。ヒットラーには一つうまく行くと云ふ確信があつたのであります。五月の九日から十日にかけて、ドイツの大空軍は落下傘部隊を滿載してオランダの上空に現はれました。オランダは皆さん御承知の通り洪水戰術を行つたのであります。到る所こゝの琵琶湖のやうに水が浸つて居つたのであります。が併しオランダの心臓部と申しませうか、ハーグ、アムステルダム、ロッテルダム、あの邊は水が浸つて居らなかつたのであります。扱て空から見ますと、到る所の電信柱の上に、

ハンカチやら、風呂敷を著けて居るものがあるではありませぬか。そこには降りても敵は居らぬ、味方が居る。さう云ふ合圖であつたのであります。總て五月の十日の夜になりました。さうするとドイツの大空軍は再び落下傘の増援部隊を満載してオランダの上空に現はれたのであります。オランダは勿論燈火管制で眞暗になつて居つた。否オランダの燈火管制は眞暗ではなかつたのであります。眞暗の筈のオランダの其處此處に變な明りを付けて居るものがあるではありませぬか。其明りを付けた所に降りると敵は居らぬ。味方が居ると云ふ合圖であつたのであります。そこに降りて見ると成程敵は居らない。そこには其落下傘部隊の所に狼狽して、駆けつける者があつたのであります。そして先づ「機關銃を呉れ」と云ふのであります。ドイツの落下傘兵は機關銃を必ず二挺持つて居る。一挺は自分の物であつて、他の一挺は降りた時にそこに駆けつけた者の味方にやらなければならぬ。然らば電信柱の上に白いハンカチ、風呂敷を付けて合圖したのは誰か、夜になると變な明りを付けて降りると狼狽して、駆けつけた者は何か、夫れは申すまでもなく獨軍の第五列であつたのであります。第五部隊であつたのであります。ドイツのスパイであつたのであります。壁に耳ありと申しますが、ヨーロツパに参りますと云ふと、事實壁に耳があるのであります。東洋では諺でありますが、西洋に於きましては、夫れは諺でなくて事實であるのであります。例へば私のやうな注意人物になつて居る者がモ

スコアやブラーグなどにやつて來ますと、ホテルに案内をして呉れる。そして此の部屋は見晴が良いとか、綺麗な風呂があると云ふて愛想の良いことを言つて呉れますが、さう云ふ部屋に限つて壁の中に聴音機がある。正に壁の中に耳があるのであります。是はモスコイばかりではありません。ドイツに乗つ取られる前のブラーグ、あのブラーグにはソ聯のゲ・ベ・ウが網を張つて居つたのであります。私が居つた時にドイツの知人を數名ホテルのレストランに招んでやつたことがあります。すると「夫れは止めて呉れ」と云ふのであります。「それは何故か俺の泊つて居るレストランはブラーグでも有名ではないか」とすると友人答へて曰く「ブラーグのホテルと云ふホテル、悉くソ聯のゲ・ベ・ウが網を張つて居るから料理がまづくても良いから小さな料理屋に案内して呉れ」と云ふことであります。私もヨーロツパ中をあつちこつちして居ります間、どこかの第五部隊に知らぬ間につけられていたのであります。私のトランクの一つが無くなつて了つた、私共新聞記者には秘密はありませぬから良いのであります。外物には手を著けずネクタイだけを取つて行つた、是はスパイの玄人のやり方であります。皆さん御承知の如くスパイとスパイの間の聯絡は細長いネクタイの中に聯絡の手紙を差込むのである。だから私の荷物の中のネクタイだけを持つて行つたのであります。是は素人の仕事ではありませぬ。私は何時の間にやら何處かの第五部隊の目標になつて居つたのであります。近年のヨーロツパは何處

へ行つても彼處に行つても斯う云ふ第五部隊の物凄い活躍があるのであります。私は先程ヨーロッパは四大巨頭の肚藝舞臺であると申しましたが、それは表面のヨーロッパであるのでありまして、裏面から見たヨーロッパは斯う云ふ四大巨頭の手先であるスパイ、第五部隊の物凄い暗躍舞臺であるのであります。ドイツは昨年三月戦はずしてチエツコを乗ツ取りましたが、夫れはドイツの本部隊が来る前にドイツの第五部隊が乗込んで無血の占領をしたのであります。其のあとで獨軍二十萬がやつて来て戦はずして占領して了つた。私はさう云ふドイツの第五部隊の活躍を見て驚歎したのであります。私はあちらからかうして各國スパイの活躍を屢々報道したのであります。果せるかな今度の戦争に於て大なる存在を現はして来たのであります。獨軍の行動は毎時も電光石火、疾風迅雷、抜く手を見せぬ早業である。そして此獨軍の進撃には必ず第五部隊の策動があるのであります。ヒットラーが一度刀を振上げたと見るより早く、早くもそこには敵の首が轉げて居るではありませんか、デンマークのコペンハーゲン、ノルウェーのオスローが陥ちて居るではありませんか、夫ればかりではありません。ノルウェーの北に面して居る北氷洋岸の果てのナルヴィク港頭高く其の日の内にハーゲン・クロイツの旗が聳つて居るではありませんか、是にはイギリスも喫驚した。全世界が驚いた。どうしてドイツの手があんな所まで及んだのでありませうか、所が夫れも驚くに足らぬのであります。何故ならナル

ヴィク港の長官コンラッド・スンドローと云ふ其の人がドイツの第五部隊の指揮官の一人であつたのであります。ドイツのヒットラーがノルウェー攻撃の命令一下早くもナルヴィクの港頭高くハーゲン・クロイツの旗が聳つたのであります。實際ドイツの第五部隊の働きは大したものであります。も一つ大きな働きをしてゐた。夫れはマジノ本線の突破であります。マジノ本線はフランスが何十億フランの國帑を費し、數年間かゝつて作つた難攻不落の城塞であつたのであります。フランスは此のマジノ線がある以上はドイツが如何に攻めて来てはね返すと確信して居つたのであります。所が其のマジノ線が一日か二日の攻撃で破れて了つたではありませんか。夫れはどう云ふ譯でありませうか、夫れには私は二つの原因があつたと思ふ。其一つは矢張第五部隊の働きであります。ドイツのスパイがあつたフランスのマジノ本線の隅々まで其手を延ばして居つたのであります。さうしてあのフランスのマジノ要塞中セダンの一角から突けば必ず突けると云ふ情報を持つて来たのであります。是がフランスのマジノ線が瞬く間に獨軍に依つて叩きつぶされた原因の一つであると思ふ。も一つは何であつたか、先程申しましたやうにあのミュンヘン會議に於きまして、一昨年の秋であります。ドイツは戦はずして例のヒットラーの脅しで英佛を抑へつけ、そしてチエツコ・スロヴァキアからズデーテン地方をもぎ取つたのであります。あのズデーテン地方はチエツコとドイツとの國境に横はつて居る

所で、そこにはドイツ人が澤山住んで居る。だからドイツに譲れと言つたのでありますが、必ずしも是はドイツ人が住んで居つたばかりではないのであります。實はあのズデーテン地方にはマツサリック線と云ふものが出来て居つた。私はこの地方を十數回往復して知つて居るのであります。其の度毎にズデーテンを通過しましたが、そこにはマツサリック線、別名小マジノ線が横はつて居つたのであります。チエツコがドイツに對する防禦線としてフランスの將校を招いてマジノ線を真似て拵へたのが此のマツサリック線であります。是があつたものですからヒットラーがあゝのズデーテン地方を要求したのであります。夫れでチエツコは戦はずしてドイツに敗れたのであります。そしてヒットラーは意氣揚々と乗込んで其壁に弾を撃ち込んで見たのであります。何しろ三米、四米のベトンで固めたものでありますから、ビクともしなかつたのであります。が併し此の小マジノ線を取つた所のドイツは、此の冬のことでもあります。歐洲大戰が冬眠状態に陥つて居る間に一方國內に於てはあの四十何箇所の道場で落下傘戰術の猛練習をやると同時にズデーテン地方に於けるマツサリック線、小マジノ線を目標にしてマジノ本線突破の猛練習をやつたのであります。其猛練習の結果、何かしら恐ろしい砲彈、爆彈を發明したらしいのであります。何でも其尖端がド偉い固いものを使つた所の爆彈、夫れがベトンの壁にブツつかると、喰ひ込んで行くと云ふことではありますが、私は何しろ軍事に付

きましては、素人でありまして、只聞いただけを申上げるのでありますが、斯くして冬の間に小マジノ線を目標にして本マジノ線突破の練習をやつた。是がマジノ本線を突破することが出来た第二の原因であつたと思ふのであります。併し私はドイツが新しい武器、新しい戰術と云ふものを大出しには出さない、小出しに出す、さうして相手が變ると必ず別の手を出すと云ふことを申しましたが、然らばベルギーを抑へ付けるのにドイツはどう云ふ手を試みたか、先づあのリエージュの要塞に向つて飛行機から爆彈を投げつけたのであります。是もフランスのマジノ線と竝んで難攻不落と言はれたのであります。しかし僅か二、三日の中に叩きつけられたのであります。次はブラツセルの上空にドイツが大空襲を試みたのであります。但しドイツのブラツセル空襲と云ふのは非常に變つたやり方であつて、ブラツセル上空にドイツの大空軍が現はれたが最後ブラツセルの都は瞬く中に木葉微塵になるのではないかと思はれた。所が只一軒四方だけの區劃を切りまして、そこだけを空爆したのであります。ブラツセルはベルギーの都でありますから、大きな都會であります。其中で一軒四方と申しますと、極めて小さな區域であります。しかし夫れ以外には手を著けなかつたのであります。但し其の一軒四方と云ふものは文字通り木葉微塵に叩きつけられました。是は私矢張ヒットラーの脅しの手であつたらうと思ふ。ヒットラーは戦はずしてベルギー軍五十萬を征服したかつた。そして先づリエージュの

要塞に向つてド偉い爆弾を投げつけてベルギー軍を威嚇し、次いでブラッセルの一角を叩きつけてベルギーの國民の度膽を抜いた譯であります。さうしてヒットラーはベルギー國王レオポルドに向つてベルギー軍が今直ぐ兜を脱ぐなら何も文句は言はないが、若し英佛の手先になつて獨軍に楯突くなればリエージュの要塞ばかりでない、ブラッセルの一軒四方ばかりでない、更にブラッセル全部に擴大するぞ、否ベルギー全土をやつつけてやるぞと脅したのであります。是がヒットラーの得意の脅しの手であります。しかしベルギーは最後まで前の歐洲戦争に於て戦つた國でありまして、只脅しだけでは降らなかつたと思ひます。然らばどうしてあの五十萬の大軍がヒットラーの軍門に降つたかと云ふと、話は古いことであります。シベリア出兵の當時に居るのであります。當時私はウラジヤストツクに居つたのであります。皇軍上陸について英軍、佛軍、米軍が上陸したのであります。所が彼等は最前線に立たない。最前線には皇軍だけを出して、後方に居居つたのであります。そして汽車の機關車や貨車の奪ひ合ひをやつて居つたのであります。我が皇軍の後方攪亂をやつて居つたのであります。そして彈丸の來ない所に居つた。私は之を見て憤慨したのであります。怪しからぬことをやる。大いに紙上に攻撃致したかつたのであります。何分英佛米の同盟軍を輕々しく攻撃することは出来ませぬ。國際問題になります。が併し斯う云ふ不埒なことを我々が黙つて居る譯には行きませぬ。之を

報告するのが我々の使命であります。書いてはならぬ、書かなければならぬ、我々は屢々斯う云ふ立場に陥るのであります。そこで私は頭をひねつてそして一通の通信を書いたのであります。其の通信は大毎、東日に載つたのであります。其の私の通信は――

聯合軍謙讓の美德

と云ふ大きな見出しの下に送つたのであります。聯合軍は謙讓の美德を發揮してウラジヤストツクに上陸すると、わが皇軍に向つて「お先へ〜」と言つて自分達は後ろに居ると云ふことを書いたのであります。が併し謙讓の美德と書いてあるから、英國の大使も米國の大使も抗議の申込みやうがないのであります。しかし此の謙讓の美德と云ふ文字の眞の意味が何であるかと云ふことは賢明なる讀者諸君は勿論十分諒解されな譯であつたのであります。而して私は思ふに今度白蘭地方に於きまして、ベルギー軍が無難作に降伏して作戰上の一大齟齬を來たさしめた主要なる原因は英軍の此の謙讓の美德にあつたと思ふ。ドイツがオランダに侵入して來た。オランダは英佛軍が援けに來るだらうと思つて居つた。成程英軍は一個大隊ばかり上陸したさうであります。何でもド偉い武器を持つて來たさうであります。其の中には蓄音器、ラヂオを持つて來たさうであります。(笑聲)併し俺達が來たから安心しろと云ふて居りましたが、ドイツ軍が來るとサツサと歸つて了つた。ベルギーにはゴート將軍を司令官とする英軍の精銳が遙か

後方に居て少しも前線に出ようとしなかつた。ベルギー軍は第一線に、フランス軍は其の後方に、そして其の後ろに英軍が控へてウキスキーを飲んで居つたのであります。即ちベルギー戦に於いても謙讓の美德を發揮したのであります。そこでベルギー國王レオポルドは考へた。今度の戦争は元々ドイツ對イギリスの戦争ではないか、ベルギーは此れに際してそば杖を喰つたに過ぎない。しかも最前線に自分達は立たなければならぬ。そして英軍は後方にあつてウキスキーを飲み着音器を鳴らしてやつて居る。何だ、と云ふ是がベルギーの降伏の主因でないかと思ひます。謙讓の美德が災したのであります。(笑聲)

扱てフランスに乗込んだ獨軍はどう云ふ新しい戦術、武器を出して來たか、相手が變ると新しい戦術を出して來る。然らばフランスに對してドイツはどう云ふ新しい戦術を持つて來たか、あのマジノ本線をセダンの一角より破つた獨軍は、先づそこから御承知の如く機械科部隊の主力、三十五噸の戦車、四千臺と云ふものを入れて來たのであります。是は恐ろしい力であつた。さうした戦車隊が乗込んで來ますと云ふと、それと並んでドイツの空軍が低空爆撃でやつて來たのであります。此の空軍の低空爆撃と火炎砲を載せた戦車、此の前にはさしもの佛軍も兜を脱いだのであります。何しろあの當時佛軍はマジノ本線が破れることさへ思はなかつた。大丈夫喰ひ止め得ると信じて大部分をベルギーの方にやつて居つたのでありますから、セダンの一角

を突き破つて來た獨軍に對しては用意はなかつたのであります。此のドイツの部隊は一氣呵成にパリを去る百二十キロのソナムの河畔につき出たのであります。實にパリは危くなつて來たのであります。レイノー内閣は狼狽して、ポルドウに逃げたのであります。總てレイノー内閣は辭職してベタン内閣が取つて代りました。ベタン内閣は到底もうドイツと戦ふことは出來ない、叶はぬを見たのでありませう。ドイツに休戦を提議したのであります。そこで皆さん御承知の通りパリーの東にありますコンピエーニュの森の中で此の前、二十餘年前聯合軍司令官フオツシユ元帥が獨軍の司令官を呼び付けて休戦條約を突付けた、而も其の同じ展望車の中で佛軍に對して獨軍は休戦條約を手渡ししたのであります。

歴史は繰返すと申します。至言と申さなければなりません。扱て其の後に來るものは何か、それは獨軍のイギリス本土襲撃であらねばなりません。今夫れは目の前に展開して居るのであります。ドイツのイギリス襲撃に付きましては、今現に目の前に發展して居る出來事である。且又——時間も足りませぬから、夫れは省略すると致しまして、私は今日の演題の後半のソ聯の動向に付て御報告申し上げたいと思ふのであります。

ロシア問題に付きましては、私は彼は三十年近く其の報道の任に當つて居るのであります。革命後のソ聯になつてからもロシアに私は前後七回程飛込んで行つて居るのであります。所が

此のソ聯問題と云ふのが却々厄介な問題であります。私が長い間苦い體驗を嘗めたことを先づ御報告申上げたいと思ふ。

孫子の兵法に

「敵を知り己を知る。百戰百勝」

とありまして、我々は敵を知らなければならぬ。ソ聯を知らなければならぬのであります。所がロシアの革命が起つてもう既に二十三年になります。其中最近二十年間の日本の指導方針はソ聯は赤い國である。危険思想の國である。臭い物には蓋をして置けと云ふことであつたのであります。でありますから、ソ聯に手を觸れてはならぬ、ソ聯を研究してはならぬ、敵を知つてはならぬと云ふやうな結果になつて居つた譯であります。でありますから、ソ聯に飛込んで行つてそして其の眞相を研究すると云ふことに付きましたは、色々の困難が伴ふて居つた譯であります。即ち私共が身を挺してあの赤いロシアに参りますと、ロシアにはゲ・ベ・ウがあるのであります。恐しい第五部隊があるのであります。此のゲ・ベ・ウが血眼を光らせて警戒するのであります。私は曾つてシベリアの眞中でバイカル湖の東にあるウエルフネウチンスクと云ふ所でゲ・ベ・ウの爲に着物をはぎ取られる靴は取られる荷物を取上げられる、全く裸にされたのであります。裸にした其の上で更に二週間程抑留されたのであります。そして私は外蒙古に

叩き出された。其のお蔭で外蒙古の見物が出来たのであります。が、(笑聲) 私はゲ・ベ・ウには相當酷い目に會つて居るのであります。加之、今度は日本に歸つて來ると、あいつは赤いロシアから歸つて來たと云ふので色々面倒があつたのでございまして、ロシア研究には色んな困難が伴つたのであります。併し乍ら私は御覽の通りソ聯に度々参りまして、赤いソ聯から頭が白くなつて歸つて來たのであります。が、(笑聲) 赤くなつて歸つたのではないのでございまして。近年漸くソ聯を知らなければならぬ、敵を知らなければならぬと云ふことになりました。ソ聯を知るの急務が叫ばれ出して來まして、ソ聯研究が大分樂になつたのであります。しかしツイ數年前までと云ふものは却々ロシア研究はまことに六ヶしかつたのであります。敵を知り己を知るは、百戰百勝、敵を知らなければならぬのであります。私は此の長い經驗から割出して、ソ聯には三つの重點があると思ふのであります。其の第一の重點はソ聯は我々の國と違つた、主義制度の變つた國である。赤い國である。でありますから我々がソ聯を普通の常識で判斷すると思ふのが外れて了ふ。是が第一であります。第二はソ聯の政權を握つて居る所謂クレムリンの主人公スターリンを初めみな恐しい老々、海千、山千の人達であります。却々相手が悪い。ソヴェット政府の政策にはいつも裏表があるのであります。ソ聯政府の政策の表ばかりを見てゐると是亦飛んでもない見當外れに終るのであります。も一つソ聯問題の重點はソ聯は

始終變つて行くことではありません。政策ばかりではありません。イデオロギーまでが次々に變つて行きつゝあるのです。昨日のソ聯を以て今日のソ聯を斷定してはならぬ、今日のスターリンを以て明日のスターリンを推すことは出来ないであります。此の二十三年の間のソ聯は相當變つて居る。終始變化をくりかへして居りますから、私は三年措き、四年措きにソ聯に飛込んで行つてそして變つた所の新しいロシアを見ることに努力したのであります。殊に此の最近四、五年の間に政策ばかりでなくイデオロギーの上にも變つて來たのであります。今度私が三年前モスコーに飛込んで参りました時の、其の間の出來事であります。大變な變化が起つたと、私が直覺的に感じましたことはソヴェット政府が歴史の教科書を改編したといふことであります。今から二十三年前レーニンが政權を握ると、先づ今までの歴史をスツカリ書き直しました。御承知の如く彼等は共產主義者であります。唯物主義者であります。でありますから、彼等は歴史をつくり直すに當りまして人間の個性を認めないのであります。總ての民族の歴史と云ふものは經濟の原則から發展して來たものである。そこで個々の人の事績は全然抹殺されて了つたのであります。所が今から三年前スターリンはさうしたレーニンのロシア歴史をスツカリ書き換へて了つたのであります。經濟の原則ばかりではない、人類の歴史には個人、個性の働きと云ふものが偉大なる力をなして來た。ロシアの大をなしたのはロシアの歴代のザーのお蔭で

あつた。ザーを助けて來た大官や將軍のお蔭であつた。ロシアの大をなしたのはペーター大帝のお蔭であつた。ナポレオンをモスコーに引き付けて叩きつけたクーツーゾフ元帥は偉大なる人傑であると云ひ、ザーに對して反對して居つたスターリンが今やザーやそれを輔佐した人達を禮讃して來たのであります。非常な變り方ではありませんか、大變なイデオロギーの變り方があります。斯う云ふやうに變つて來た所のソ聯は何處へ行くのでありませう。スターリンはもうレーニンの繼承者でなくしてピョートル大帝の政策を再現しようとして來たのであります。大變な變り方があります。でありますから、我々が昨日のソ聯を以て今日のソ聯を斷定してはならぬ。今日のスターリンを以て明日のスターリンを決めることは出来ぬのであります。スターリンは數年前まで「ソ聯はソ聯の領土は寸地も外國に譲らないと同時に外國の領土もまた一塊も欲しくはない。」之は十數年前彼が發表した政綱であります。是がソヴェット政府の外交方針の根本をなして來たのであります。七年前モスコーに私が居つてウラジヤストツクを経て歸つた時にウラジヤストツクの街に大きな頭文字で「ソ聯の領土は寸地も外國に譲らない、夫と同時に一塊も外國の領土は欲しくはない。」と云ふことを掲げて居つたのであります。が併し夫れは昨日のスターリンでありまして、今日は外國の領土を寸地も欲しくないどころではありませぬ。いくらでもほしいといふことになつてゐる。大變な變り方ではありませぬか、例へて申

しますと、ソ聯は病氣を持つ大男であると思ひます。ソ聯は身體は大きいのであるから強さうに見えますが、國內には色々悩みがある。一寸無理すると病氣が出さうである。だから無理が出来ない悩みがある。私が何度も／＼ロシアへ行つたことも此の内臓の病氣を打疹する爲でありましたが、時間がありませぬから此の内臓の病氣に付ては、詳しく申上げかねますが、その最も大きな病患はトロツキストであります。彼等は今なほソ聯の共産黨内に澤山残つて居ります。今はカモフラージュし、假面を被つて居りますが、ソ聯が何か無理をして行詰ると彼等が立つてスターリン政府を打倒しようとするその機會を狙つて居るのであります。ソ聯の内臓の悩みとは中々深刻である。スターリンが如何にトロツキストを恐れて居るか、彼がメキシコに亡命して居り、全然無力なトロツキーを暗殺させたことでもわかると思ふ。トロツキーが健在である時スターリンは枕を高くして安眠することは出来ないであります。赤色軍の中にもスターリン反對の分子が澤山居るのであります。是また大きな悩みであります。だからソ聯は臆病である。大國を相手に全面的に戦争をやる勇氣がない。日本に對しても張鼓峰とかノモンハンとか限られた所にはぶつかつて来るが日本が全面的に向き直らうとすると逃げるのであります。ソ聯がドイツと不可侵條約を昨年八月二十三日に結んだ。何故ソ聯はイデオロギーの敵であるヒットラーと手を握つたか、夫れは要するにドイツを恐れたからであります。ソ聯が常に恐れ

て居りますのは、日本とドイツであります。東に於ては日本、西に於てはドイツを恐れてゐるのであります。さうして東西から挟み撃ちをせられはせぬかと云ふことを最も恐れて居つたのであります。今から三年半前日獨兩國の間に防共協定が出来た。其の時のソ聯の狼狽て方は一方でなかつたのであります。是は大變だ、とばかりスターリンはヒットラーの所へ自分の腹心の乾分である同郷出身のカンデラーキーと云ふ男を派遣しましてヒットラーに「ドイツでは石油、石炭、穀物を御入要だと聞いて居ります。それ等の資財はドイツの爲ソ聯はいつでも提供しませう」と云ふ申入れをなした。夫れが日獨協定が出来た直ぐあとであつた。それと同時にソ聯は更に蔣介石をたきつけて日本と全面的に戦争をやらせるべく工作したのであります。當時クレムリンは日獨間に軍事協定が出来たと思つたのであります。實は無かつたのであります。クレムリンは軍事同盟が出来たと見たのでありまして、どうしても日獨防共協定を骨抜きにしなければならぬ。防共協定の表面にありさうな軍事同盟をつぶさなければならぬ。日獨兩國が東西から挟み撃ちに來てはたまらぬと云ふことから、ドイツに石油、石炭、穀物を提供することによつてドイツをなだめ、日本に對しては支那を使つて日本に衝らしめようとしたのであります。其の後ドイツはソ聯の同盟國であるチェッコ・スロヴァキアを叩きつけたのでありますから、スターリンとヒットラーとの間の交渉は中絶になつたのであります。併し三年半後になつても、

カンデラーキーがベルリンに行つて約束したことは、反古にはなつて居らなかつたのであります。そして昨年の春になりますと、又その古證文がものをいひ出したのであります。スターリンは何時でも「ドイツの爲に、石油、石炭、穀物を提供しませう。」三年半前の話が昨年の春になつて盛返して來たのであります。チエツコ・スロヴァキア問題が片着くと直ちに話が燃りを戻しまして、そして獨蘇の間に再び交渉が開始されたのであります。ヒットラーの方ではポーランドを叩きつけよう、英佛と戦ふのにソ聯に後ろから突かれては困るからソ聯と手を結ばなければならぬ。夫れでポーランドの東半分を興へて釣つたのであります。老々獺々のスターリンの方では釣つたのはヒットラーでなくて俺の方なんだ、俺が石油、石炭、穀物でヒットラーを釣つて、そして今度の大戦争をやらせたのだと言つて居るのであります。成程さう見ればさう見えぬでもない。私は今日のソヴェット政府のとつて居る政策、即ち今日のソ聯の動向、夫れを極く判り安く申せば自分で戦をしないのであります。何しろ病氣を持つて居る大男であるから無理が出来ない、自分で戦はずに隣りの者をして戦はせる。隣りの家に火を付けて、さうして火の上つた時に乗じて火事泥をやらう。是がソ聯の動向である。さうして夫れが本日のお話の劈頭に申上げたジョールジャ・ギヤングの頭目のスターリンの政策として洵にふさはしいものであると言はなければならぬのであります。日本と支那といふ兩隣りに火を付けて大

火事を起させ、そして其の火事に乗じて火事泥をやらうとしたのが張鼓峯事件でありノモンハン事件であります。之に對して我が皇軍が力戰奮闘して赤色軍を撃退致しましたから、極東に於きましてはスターリンの火事泥は徒勞に終つたのであります。ヨロロッパにおきましてはスターリンの豫想以上に大成功であつたのであります。

扱てヒットラーをして起たせ獨波戦争が起つた。ポーランドとドイツといふ兩隣に火を付けて火が上る。そしてポーランドが参りかけると、九月の十七日に赤色軍がドン／＼乗り出し殆ど戦はずに東半分を乗つ取つて了つたのであります。更に其の勢に乗じてソ聯はバルチック三國を抑へて了つた、さう云ふやうにグン／＼うまく行きますと云ふと火事泥がいよ／＼面白くてたまらなくなるのであります。スターリンは更に手を差延べてフィンランドを乗つ取らうと考へたのであります。昨年の十一月三十日赤色軍がフィンランドに乗込んで行つたのであります。所が此のフィンランドは却々強い國であります。フィンランドは人口三百五十萬の中の三百萬がフィン人であります。フィンランドの民族はアジアから移つた所の東洋民族であります。流石に東洋民族だけに愛國心が強い。此のフィンランド民族は却々強いのであります。私には此のフィンランドには足かけ二年住んで居つたことがあるのであります。フィンランドのことは多少知つて居ります。フィンランド民族はアジアから行つたのでありますので、フィン

ランド語が非常に日本語に似て居ります。意味は違つて居りますが、發音が似て居る。名前の終にネンと云ふのが附きます。コスキアイネン、クルシーネン、アリマクネンといふやうな名前なので、私は法然上人の末裔がフィンランドに来てゐるのでないか(笑聲)と思つたのであります。又蘇芬國境に海水浴場でテリヤキと云ふ所があります。昨年十一月三十日蘇芬兩國が最初に戦争したのは此のテリヤキであります。そこを占領するとソヴィエツト政府はフィンランド共産黨の首領である所のクルシーネン、共産黨だけに名前からしてクルシー(笑聲)を總理とするテリヤキ政府を作つた。フィンランドを武力で征服するばかりでなく、テリヤキ政府に依つて照焼にしようと赤く焼いてやらうと云ふ態度を示したのであります。茲に於てフィンランド三百五十萬の民族は照焼にしてやられては大變だといふので、茲に敢然として小さなフィンランドがあの大きなソ聯にブツつかつたのであります。ソ聯から見れば五十分の一に過ぎないフィンランドである、が併し私が先程申しましたやうにソ聯は大男であるが病氣を持つた男である。しかし芬蘭は小粒だが健康體である。ソ芬戦争はこゝに大變な番狂はせを生じたのであります。今年の三月まで續いたのであります。此の間に赤色軍は二十萬の死傷を出したのであります。而も此の二十萬と云ふ數字がソ聯政府の總理兼外相であるモロトフが議會で公表したものでありまして、事實は夫れ以上でなかつたかと思ひます。赤色軍はフィンランドに

於て大失態を演じたのであります。そこで餘り無理をし過ぎたものでありますから、ソ聯の國內にもそろ／＼色々な病氣が出て來たのであります。ソ聯の内部に動搖が起つて來た。是は大變だと云ふので、大きなソ聯の方から小さなフィンランドに手を差出して、もう戦争は止めようではないか、ソ聯の方からフィンランドに講和を提出したのであります。だから結局蘇芬戦争に於てはソ聯が負けたのだといふのであります。しかし一面から申しますと、クレムリンの政治家は中々老獪であります。相手が悪いと云ふと、サツサと手を引く、そして三月の末から四月にかけて暫く形勢觀望して居りましたが、五月になつてからドイツがいよいよ本格的に對英佛戦争を始めますと、好機逸すべからずと更にバルチック三國を徹底的に赤化、併合し、續いてルーマニアからベツサラビアとプロウイナを併合したのであります。この一年間ソ聯がかくして擴大した領土は面積に於て日本の本土以上のもの、人口に於きましては二千三百萬、大變な成功ではありませんか、たゞフィンランドの場合は兎に角として、非常な火事泥をやつたものであります。然らばソ聯はこの先どう云ふ方向に向つて進むでありませうか、もう已に近東方面、トルコ、イラン方面に向つて手を出して居ります。更に夫れがうまく行けば或はアフガニスタン、インドの方面に手を出して來るかも知れない。そこで斯う云ふやうに段々發展して來ますと、茲に當然起つて來る問題はソ聯の政策は然らば所謂帝政時代の侵略政策に變つた

のであるか、スターリンはビョートル大帝に變つたのかと云ふことにあります。然しソ聯は依然として共産主義を捨てゝはゐない。コンミュニテルンを握つて居ります。思ふにソ聯は今度の戦争がヨーロッパに局限されて居る間は所謂火事泥で隣りの國の領土侵略をやつて行く、が併し一度歐洲戦争が更に擴大されて世界戦争になつたならば、其の勢ひに乗じて再びレーニンの政策に戻りコンミュニテルンを使つて一氣に世界を赤くしようと思ふやうな考を持つて居るのではないか、そして夫れはスターリンの斯うした火事泥が近東方面に及び、更にアフガニスタン、インド方面に延びて來た時がビョートル政策から再びレーニンの政策に戻つて來る時期ではないか、私は斯様に見て居るのであります。ソ聯は大男であるが併し内部には悩みを持つて居るソ聯であるから、我々はソ聯を恐れぬのでありますけれども、ソ聯に對して我々は油斷をしてはならぬと云ふ理由が少くとも茲に三つあると思ふのであります。

其の一ツは何しろクレムリンの政權を握つて居るスターリン初めソヴェット政府の巨頭達が先程來繰返して申述べました如く恐ろしい過去の閱歴を持つた老々、海千山千の人達である。第二に我々が警戒しなければならぬことはソ聯にも多くの第五列があると云ふことでもあります。ソ聯にはゲ・ベ・ウがある。そして各國に共産黨がある。そしてこのゲ・ベ・ウと各國の共産黨の合作が赤色軍の第五列であります。ドイツの第五列がえらい成績を擧げたと云

ふことは前に申しました通りですが、私は第五列に於てはソ聯が第一であると思ふのであります。世界一の第五列を持つて居ります所のソ聯に對しては、我々は決して油斷してはならないのであります。も一つ今日のソ聯に對して油斷してはならないことがある。ドイツに今石油をソ聯が供給してゐますが、夫れに對してソ聯はお金は要らない、技術と武器を與へて呉れと云ふて居ります。ドイツとしてはいつかは戦はなければならぬかも知れぬソ聯に、武器を與へるのはいやでたまらぬのである。しかしソ聯の石油が無くては戦が出来ない。イギリス本土の空襲が出来ない。だからいや／＼ながら石油の代償として軍事技術をソ聯に與へて居るのであります。是が私のソ聯に對して油斷してはならないと云ふ第三の理由であるのであります。ソ聯恐るゝに足らず、併し油斷は大敵である。皆さんは是から各自御分擔の方面にお歸りになつて傷痍軍人並に國民一般の指導に當られるのであります。さうした重大な任務に當られるに際し、以上申述べましたことが多少でも御参考になれば幸甚の至りであります。本日は長時間に亙りまして御清聴を煩はしたことを深く感謝致します。

424
324

生きよ希望に

第二の報國

「傷痍軍人讀本」目錄

- 第一輯 御聖徳の一端について
海軍大將 爵 鈴木貫太郎
七月一日發行
- 第二輯 國史より見たる日本精神
東京帝國大學教授 平泉 澄
文學博士
八月一日發行
- 第三輯 軍人精神と禪の要諦
曹洞宗 務 高階瑞仙
九月一日發行
- 第四輯 聖上陛下の御日常を仰ぎ奉りて
海軍中將 出光萬兵衛
十月一日發行
- 第五輯 歐洲戦争とソ聯の動向
東京日々新聞社 編輯部副主幹 布施勝治
十一月一日發行

昭和十五年十月三十日印刷
昭和十五年十一月一日發行

定價一部金五錢

(無斷複製轉載ヲ禁ズ)

編輯兼發行 軍事保護院

大日本傷痍軍人會

東京市神田區一ツ橋教育會館内

印刷者 内閣印刷局

終



(本書の大きさは国定規格B6判)